

## 地域支援組織「未来へ拓く会」を生かした本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立下吉田第一小学校

### 1. 目的と経緯，組織構成

下吉田第一小学校は，令和2年度より，小規模特認校の認定を受け，市内在住なら学区関係なく入学できるようになった。小規模校の良さを活かした「きめ細かな教育」，グローバルな人材育成を図る「国際理解教育」，地域の専門家を招聘しての「ふるさとふれあい学習」を特色としている。そんな小規模特認校としての在り方や，魅力ある学校づくりについて，協議や支援活動を行う為に，平成23年度より運用されてきた学校地域支援組織「下一小学校地域安全委員会」を発展的に組織改編し，緊急災害時における学校と地域との連携の機能を引き継ぎながら，学校教育の総合的支援組織としての機能を持つものとして本会を立ち上げた。構成員は，地域関係者（自治会長，育成会長，消防団長，幼稚園保育園園長，旗振りボランティア代表，地区選出市議会議員，学校評議員，市安全対策課職員），本校PTA役員及び本校職員である。毎年，6月に役員会，2月に総会を行っている。

### 2. 成果と課題

今年度も6月に役員会を開いたが，その折には，特認校としての在り方や，地域支援の在り方に対して，様々な意見交換がなされた，そうした貴重な意見を反映させ，今後，より魅力ある学校づくりに励んでいきたいと考えている。また，本会を通じて，本校の様子を地域の方に知っていただくことで，地域の方に旗振りボランティア（写真・上）としてご協力をいただきたり，7月には実施した150周年記念航空写真撮影会（写真・中）や，10月にはシニアクラブの皆様とふれあい集会（写真・下）を開催できたりと，地域の方と連携・交流を進めることができている。課題としては，地域の組織（自治会長，育成会長，消防団長）は，毎年，新組織となるので，メンバーが入れ替わってしまうので，継続した連携をしていくには難しい一面もある。今後は組織の在り方も含め，更に効果的で深い連携をもてるような会へと発展させていきたいと考えている。



## 保護者・地域・学校で行う教育活動

### ～下二っ子サポーター(保護者・地域との連携)～

#### ☆学習サポーター

学習サポーター 下吉田第二小学校保護者並びに地域住民

#### 1. 目的と経緯

保護者や地域の方から学校の印象を聞くと敷居が高いという回答をいただくことが多い。本来、学校は地域と共に育っていくものであり、保護者・地域・学校の三者が一体となって教育活動を進めることで、教育的効果が高まっていく。その一つの方法として、保護者や地域の方に授業のサポートをしていただく(学習サポーターを含む)下二っ子サポーターを募り、取り組みを進めている。

#### 2. 内容

##### ・3年生町探検

3年生では、地域学習の一環で学校を離れ地域の公共施設や寺院などを巡る町探検を実施している。富士吉田市は、外国人を含む市外からの観光客が非常に多い地域であり、日本の文化や交通ルールに慣れない方もいる。そんな中でも安心して学習に励むことができるよう、学習サポーターの方に協力していただき、安心・安全な中で町探検を実施することができた。



##### ・5年生ミシンボランティア

5年生の家庭科では、ミシンを使った学習がある。ミシンを初めて使う児童も多いこの単元は、ミシンの扱いに慣れるまで時間がかかり、操作ミスによって糸が絡まってしまったり、ミシンの調子が悪くなってしまったりすることが頻繁に起こる。その頻繁に起こるトラブルに担任一人で対応するのは難しく、人手を要する。ミシンの使い方や糸の処理などをミシンボランティアの方にさせていただくことにより、限られた時間を有効に活用することができた。



#### 3. 成果と課題

○町探検もミシンの学習も、多くの保護者や地域に見守っていただくことにより、安全に学習を進めることができた。また、日頃の学習活動を見ていただくことにより、学校の工夫や苦勞などを保護者の方と共有することができた。

○「子どもたちから、先生なんて呼ばれちゃった」と嬉しそうに授業を振り返る保護者の方もいらっしゃるなど、学校に対する好意的なイメージをもっていただくことができた。「今後も活動に参加したい」と話される方もいらっしゃった。

●開かれた学校という面から見ると、集まっていたいただいた保護者の数は限定的であった。教育活動が見える、そして地域に発信してもらえる活動にするために、広報周知を積極的におこない、保護者や地域からもっと支援していただける学校にしていく必要がある。



# 本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立下吉田東小学校

愛染地蔵尊地域学習会を通じた地域の歴史を知る学習  
～愛染厄除地蔵尊祭を主催する東町自治会の方々との連携による総合的な学習～

令和5年2月7日(火)・14日(火)実施

## 1 目的と経緯

愛染地蔵尊についての話を聞き、伝承してきた人々の思いや願い、富士山信仰や富士講について知り、自分たちが住む地域の歴史を学ぶことを目的とした。

本校では、第3学年の社会科における学習として行っていたが、現在は総合的な学習の時間の学習として行っている。

## 2 内容

1回目の学習は、東町自治会の方を講師として本講のお招きして学習会を行った。愛染地蔵尊の歴史や修復の経過、例大祭のあらましや内容について、お話を伺った。

2回目は、愛染厄除地蔵尊祭の2日目に、実際に現地に行った。まず、お堂前に整列し、順番に一人一人お参りをした。その後、1回目に学習したことを実際に見て確認した。

## 3 成果と課題

地域にある愛染地蔵尊が1482年に建立され、1885年に修復されて以来、130年余りが経過し、傷みが激しくなったため、7年前に1年かけて欠損している部分の修復を行いながら組み立てなおしたことなど話していただき、身近な地域の歴史を知ることができた。

郡内地域で唯一の厄除け地蔵尊として、毎年2月13日正午から14日正午にかけて大祭が行われ、安置されている地蔵尊の耳が開き、善男善女の願いを聞き入れ厄難を逃れることができると伝えられていることや富士北麓に春を呼ぶ行事として親しまれていることなど、児童も関心を持って聞き、知識を深めることができた。

地域文化の継承のため、3年生の学習にしっかり位置づけ、今後も学習会を継続していきたい。



## 本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立明見小学校

明見地区に根ざした教育の推進  
～ NPO法人 母さん・父さんの楽校との連携 ～

### 1. 目的と経緯

- ① 5年生において、お米づくりの学習があり、長年地域のNPO法人の御協力のもと、お米づくりの学習を支援していただいている。
- ② 例年通り、お米づくりを体験し、今年度は、感染症後ということで、お世話になった方を学校へ招待する催しを企画した。

### 2. 内容

- ① 5月に田植え、6月に泥がき、10月に稲刈りを体験した。
- ② 11月には、そのお米を炊いて食べた。また、社会福祉協議会に食糧支援として届け、旗振りボランティアにも配ることができた。
- ③ 12月には、感謝の会を開き、交流活動を行って、お礼の気持ちを伝えることができた。



稲刈りの様子



感謝の会の様子

### 3. 成果と課題

- お米づくりを通して、地域に支えられながら（地域の人々の温かみ、専門性の提供など）、児童の学び（教員の学びにも）につなげられたこと。
- ▲学校と地域が連携することで、「地域にある学校」の具現化につながることから、この取組を継続させることと、また今後、どのように意図的に、地域資源を教育課程に取り入れられるかということ。

## 『自分の未来を考えるキャリア教育』 ～富士北稜高校とのキャリア教育連携～

### 1 目的と経緯

富士吉田市小中高連絡会議の中で、キャリア教育の一環として高校見学が提案された。吉田西小学校は北稜高校が学区内にあり、歩いて見学に行けることや過去には2年生が探検させてもらった経緯があったことから、本格的に高校見学を計画した。令和5年度で3年目を迎える。

小学生の経験や社会的視野は限られていて、自分の将来を現実的に考えることはまだ難しい。小学校6年という節目の年に、自分を取り巻く社会や職業と自分の特性・役割について考え、職業観・勤労観を学んでいくキャリア教育において、将来どう生きていくのか少しずつ考えさせる。校区内にある富士北稜高校とのパートナーシップを築きながら、キャリア教育を進めていく。

### 2 内容

北稜高校には「福祉健康」「総合ビジネス」「電気情報」「機械テクノロジー」「建築デザイン」「教養」の6つの系列があり、進路に合わせた実習が行われている。6年生は各系列の中から自分が見学したい系列3カ所を決めてグループ編成をした。当日はそれぞれのグループに高校3年生で西小卒業生が2名ずつ付き案内をしてくれた。

実習見学の後は、大ホールに集まり、高校生との質問タイムがあり、6年生からは「どんな実習が楽しいですか」「進路を決めたのはいつですか」「どうしてその進路を決めたのですか」「卒業したらどんな仕事をするのですか」などたくさんの質問が出された。



### 3 成果と課題

基礎的学習を学んでいる6年生には北稜高校で実践的に学んでいる高校生の姿や、そのために充実した施設が整っている高校は大変刺激になった。高校生の中でも中学生のうちに自分のやりたいことが決まっていたと答えた生徒もいれば、高校1年生の実習を通して自分のやりたいことを見つけたと答えた生徒もいた。進路選択の実体験を生々の声で聞いたことや「今の基礎学習を身につけることが大切だ」という話は今後の学校生活にも活かされる体験となった。

中には将来を考えられない児童や系列とは違う目的を持っている児童もいる。北稜高校の見学を一つのきっかけとして、将来の姿を思い描きながら、今自分に出来ることを考えさせたい。





## 聖徳幼稚園への1・2年生合同の訪問活動

－ 地域の保育園・幼稚園との積極的なかわりを通して －

### 1. 目的と経緯

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、様々な教育活動にも制限がなされたため、ここ数年は幼保小連携活動に苦慮することが多かった。しかし、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上での位置付けが「5類感染症」に移行されたことで、以前のように児童と幼稚園・保育園児とが直接交流する機会が持てるようになった。そこで、本年度一番多くの新入学児童を迎えた園と交流することにより、児童自身が成長した自分たちを実感すると共に、園児に小学校入学への期待と希望が持てる機会とすることを目的に、本活動を実施することとした。

### 2. 内容

- ・生活科の発展的な活動として位置づけた。
- ・1・2年生合同で実施した。(単級・少人数で普段から連携活動を行っていること、それぞれの学年での学びを活かすという趣旨を踏まえて)
- ・12月7日(木)に実施。大型貸切バスを利用し、訪問先の聖徳幼稚園に伺った。
- ・猛獣狩りゲーム、玉入れ、プレゼント渡しを行い、準備・運営は1・2年生児童が分担・協力して行った。



### 3. 成果と課題

#### <成果>

- ・園児が様々な活動を通し、本校児童とふれあうことで、富士小学校の良さを知ってもらえた。
- ・今回交流した幼稚園児のうち、7名の園児が来年度本校に入学する予定であり、幼保小連携活動の本来の目的である「円滑な小学校生活への接続」のための貴重な体験の機会を設定することができた。
- ・2年生においては、1年生以外の多くの園児を対象に、活動を準備・運営するという機会になり、指導したり配慮したりしながら活動する力を伸ばすことができた。1年生においても、2年生と協力する機会となり、2年生同様指導性を培う良い機会にもなった。

#### <課題>

- ・訪問先で多くの園児たちに伝えることの難しさがあったため、今回は小学校の紹介を行わなかったが、紹介があった方が小学校生活への接続により有効であった。
- ・第1回目の幼保小連携会議後に交流活動の計画を立てることとなったため、年間行事予定が出た後になってしまい、実施日の設定が難しかった。
- ・他の保育園にも同様の交流会を予定していたが、感染症の拡大防止のためできなくなった。そのため感染症が流行しやすい時期をずらすなどの対策が必要である。

## 地域の人から学ぼう ～土曜参観・体験学習会～

### 1 目的と経緯

谷村第二小学校では、長きにわたり授業参観後に体験教室を行ってきた。平成10年（1998年）に「日曜参観・地域の人から学ぼう集会」として始まり、平成17年（2005年）から「土曜参観・体験学習会」という形になり、今に至っている。この会が児童・保護者はもちろん地域の方々も楽しみしている会であり、地域と学校、地域と児童・保護者がつながる貴重な機会であることをふまえ、コロナ禍でも十分な感染対策を講じた上で開催し続けてきた。本校にとっては欠かすことのできない本当に大切な会である。

☆目的：地域の人から学んだ活動や体験を元に、よりよく生きようとする事ができる。  
親子で体験活動をする事により、ふれあいを深める。

### 2 内容

- ・いくつかの講座に分かれて親子で体験活動を行う。  
(ウッドクラフト しめ縄づくり 陶芸 絵手紙 手芸)
- ・講師は地域の方をお願いしている。陶芸は地域在住の都留文大の先生である。
- ・事前に各家庭に希望を取るとともに、講師に最大人数をうかがい、参加する講座を調整する。
- ・毎年行っているため、できるだけ違う講座へ参加するように児童・保護者へ呼びかけている。



しめ縄



ウッドクラフト



絵手紙



手芸



陶芸

### 3 成果と課題

○地域の方と児童・保護者がものづくりを通してつながる素晴らしい機会である。ものづくりをすることで自然とコミュニケーションが生まれ、学校・児童（保護者）・地域が互いを理解し合え、連携をより深めることができている。

△講師が高齢化しており、今後も継続していくには、その講座の後継者を確保する必要がある。また新しい講座を開設できるよう新たな人材の発掘も不可欠である。

～ 学校評議員を中心とする地域ボランティアとの連携 ～

○ 読み聞かせ活動 ○ 環境美化（花植え）活動

## 1 目的と経緯

- ・「開かれた学校」をめざして、校長の呼びかけで、学校評議員会を中心とする地域にお住まいのボランティアの皆さん協力により、読み聞かせ、花植え活動を行うことになった。
- ・学習・生活環境整備のため、地域にお住まいの方と協力して花植えを行う。
- ・読み聞かせを通して児童の読書への興味・関心を喚起させ、読書意欲を育てる。

## 2 内容

### 読み聞かせ活動

- ・ 6月(1・4年), 7月(2・5年), 9月(3・6年), 10月(1・4年), 11月(2・5年), 12月(3・6年) 1月(1・4年), 2月(2・5年), 3月(3・6年) (年9回)
- ・校長が、主になるボランティアの方と連絡を取り年間の予定を立てた。
- ・2名の方に「さわやかタイム(8:35~8:50)」に来ていただき、読み聞かせをしていただいている。

### 花植え活動

- ・ 7月, 12月: 年2回
- ・教頭が、主になるボランティアの方に連絡し、その方から参加可能なボランティアを募っていただいた。
- ・ 7月は5名, 12月は4名来ていただいた。

## 3 成果と課題

- 子どもたちは読み聞かせを楽しみにしている。
- ボランティアの方々と植えた花を、児童が分担して世話をすることができた。
- 地域の方との交流を通して顔見知りとなり、地域に住む一人として、地域を大切にする気持ちや誇りに思う気持ちを育みたい。





# 東桂小学校における地域連携・地域交流

## 「東桂小スクールガードによる交通安全指導」

### 1. 目的と経緯

東桂地区児童生徒健全育成協議会では、活動の柱の一つに「児童生徒の安全を守る運動」があり、九つの自治体ごとにスクールガードが組織されている。民生委員や自治会長を中心に約111名のスクールガードが、登校時及び低学年の下校時刻にあわせ、交代で児童の見守りをを行っている。

### 2. 内容

○7月第1学期終業式後の集団下校の際、本校校庭においてスクールガードの方との「発会式」が開かれた。活動は4月から始まっているが、改めて児童とスクールガードの方との顔合わせを実施した。顔合わせ後に地区ごと児童と一緒に集団下校をした。

7月スクールガード発会式



○児童生徒の登校時、通学路の交通量の多い場所などで、スクールガードによる交通安全等の見守りが行われる。学区内は国道139号線の横断歩道や中央自動車道の側道など、通勤時間帯に重なると危険な場所が多くあり、事件や事故の未然防止など、子どもたちの安全を確保する上で重要な活動となっている。

○交通安全、不審者対策など学校だけでは対応しきれない課題がある中、地域の方の目で子どもたちを見守っていただいていることは、とても大きな効果がある。

### 3. 小中連携と地域連携の成果と課題

東桂地区は、地域特有の文化があり、学校と地域とが強い絆で結ばれている。中でも「東桂地区児童生徒健全育成協議会」の活動は、自治会・民生委員・育成会・老人クラブ・主任児童委員・少年補導員・駐在所・小中学校の各団体で組織され、地域に深く根付いている。7月と12月には総会（今年度紙面開催）が開かれた。

子どもたちは地域社会の中でさまざまな経験をしながら、時には温かく時には厳しく見守られ、家庭や地域社会の一員としての自覚や役割、モラルを学んでいく。私たち地域に暮らす大人たちは、子どもたちの安全確保・健全育成を願い、お互いに連携を密にし、地域社会における教育力の強化に努めていかなければならない。多様化する社会の中で、学校を取り巻く環境は難しさを増している。今後も、地域住民とともに地域の中で子どもたちを育てていきたい。

# 宝小の地域連携・地域交流

都留市立宝小学校

## 命を守る教育 ～交通安全教室・防犯教室～

☆講師 大月警察署 宝駐在所 杉田巡査部長 ・ 大月警察署交通課 ・ 交通機動隊

### 1, 目的と経緯

- ①新入生の交通安全に対する関心・知識を高め、交通事故から身を守れるようにする。
  - ②夏休み前の防犯意識の向上や交通安全に対する知識を得ることを目的とする。
- \* ①は毎年おこなっていただき、②は警備会社の教室と隔年で行っていただいている。

### 2, 内容

#### ①1年生を対象とした交通安全教室

- ・入学して間もない1年生を対象に、交通安全に対する関心・知識を高めるとともに、交通事故から身を守れるようにすることを目的に4月中におこなった。
- ・講師は、毎日登校指導も行ってくださる宝駐在所巡査・大月警察署交通課の方に来ていただいた。まず教室で交通安全講話をしていただき、映像をみて確認した。また、学校校門前の押しボタン式信号を押して、横断歩道を渡る練習をおこなった。

- ①横断の仕方（校門前の押しボタン式信号機を使って体験する）
- ②安全な歩行の仕方
- ③飛び出し 等



#### ②夏休み前の全校を対象とした交通安全・防犯教室

- ・交通安全・防犯に対する関心・知識を高め、安全な夏休みとなるよう、知識を得る機会とすることを目的に、夏休み前におこなった。
- ・講師は、今回も宝駐在所巡査と県交通機動隊女性白バイの方2名に来ていただいた。1・2年生には、低学年向け交通安全防犯教室と警察車両紹介をしていただいた。3～6年生には、駐在所巡査による交通安全防犯教室を開催していただいた。



### 3, 成果と課題

- ・普段みたことのない警察車両や白バイなどを実際に用意して頂けるので、子ども達はとても楽しく教室に参加していた。
- ・駐在さんは、毎日の登校時にも見守って下さっているのですが、本当に有り難い。また6年生の登山にも引率してくださっている。
- ・課題としては、内容を毎年変えたりしなければならなかったり、担当が変わったりすることで引継が難しい点である。



# 本校の地域連携・地域交流

都留市立禾生第一小学校

## 近隣の保育園との交流会（生活科）【幼保連携】

### 1 目的と経緯

本稿の近隣の保育園として東陽保育園、川茂保育園がある。この2つの園との交流会を生活科の学習で実施している。1年生が東陽保育園、2年生が川茂保育園を担当し、『自分より小さな子に対し思いやりの気持ちを持ち、優しく接するとともに、自分で考え行動することにより、成長した自分に気づく』ことをねらいとしている。

### 2 内容

**1年** 全体会はじめの会、おわりの会【音楽室】、出店【1年各教室】

・学校紹介

1年生と保育園児がペアになり出店を案内する。保育園児には首にかけの名札を用意し、裏面をスタンプカードにして出店で受付後スタンプをもらう。

1年1組 ボーリング、輪投げ、魚釣り

2年2組 射的・的当て・触って当ててみよう？

- ・手作りプレゼント配布
- ・感想発表
- ・1年生全員で校歌をうたう。



**2年** 全体会・出店【体育館】

・手作りプレゼント配布

・学校紹介

体育館での出店（魚釣り、金魚すくい、紙飛行機とばし、輪投げ、射的、モグラたたき、宝探し、迷路）

・感想発表



### 3 成果と課題

低学年の児童が保育園の年長さんに親切に対応することで、思いやりの気持ちを育むことができた。例を挙げると、児童が店番をしているとき、魚を釣った園児の名前を釣った魚の後ろに書いておみやげにしてあげたり、輪投げの得点を書いてあげたり、色々なお世話をすることができた。また、学校紹介やお店の紹介、校歌を歌ったり各自の役割を責任を持っすっかり果たし、やり遂げることで自信をつけ、成長した自分に気づくことができた。来年1年生が入学し、自分たちが2年3年生のお兄さん・お姉さんになるんだと実感できるとても良い交流会であった。

## 学校田での米づくり

禾生第二小学校では、長きにわたり総合的な学習の取組として、学区内の小形山にある水田をお借りして、地域の方々の指導を受けながら、田植えから草取り、脱穀、精米など、一連の稲作の作業を体験しています。今年度は、その取組を埼玉県内の学校に発表しました。

### 埼玉県鷲宮小とオンラインで交流

「学校だよりより」



パソコンを使って発表

5年生が、11月22日の市内小中公開授業で、埼玉県鷲宮小学校とオンラインで2回目の交流授業をしました。今回は、本校の5年生が、総合的な学習で取り組んできた「米づくり」について、スライドを使い、画面共有をして、グループごとに発表をしました。これまで、地域の方々に、田植えや鳥よけ、稲刈りや脱穀、精米など、体験を通して教えていただきました。本やネットで調べただけの発表とは、やはり説明も違います。

事前には、学校田のお米を鷲宮小に送りました。当日の午前中に、鷲宮小では調理実習をして、届いたお米を炊いて食べたそうです。その上で、真剣に話を聞き、質問や意見をいただいたことに、子どもたちはうれしかったようです。自分たちでお米にネーミングした「ちょう米 友情のかにめぼれ」のような、交流会になりました。



田植え 5月



草取り 6月



鳥よけ 8月



稲刈り 9月



脱穀 10月



精米 10月

## スイートコーンを育てよう

今年度、禾生第二小が、小学生による農作業体験「やまなし食農園教育モデル実践事業」の実施校となりました。3年生が、6月から9月まで農作業体験活動を行いました。学区にある都留市道の駅でスイートコーンを栽培している方々、富士・東部農務事務所の方々に指導していただきました。

内容 1回目「スイートコーンを育てよう」オリエンテーション 2回目 種まき、間引き体験  
3回目 除房体験 4回目 収穫体験 試食 5回目 ドローンデモ 6回目 調理実習  
たねまき 除房体験 収穫体験 調理体験 コーンポタージュ





|                                  |
|----------------------------------|
| <b>不審者対応訓練</b><br>～防犯教育・警察署との連携～ |
|----------------------------------|

|   |
|---|
| ◇講師：大月警察署 生活安全課 渡辺 俊 さん 道志村駐在所 深澤 建己 さん<br>スクールサポーター 萩原 興治 さん |
|---|

### 1. 目的と経緯

近年、不審者が校内入り込む、登下校において不審者に付きまとわれる。という事案は後をたたない。このような状況の中、学校内、学校外を問わず、万が一不審者に出くわした時、どのように逃げるか、避難するか？等、大月警察署生活安全課・地域の駐在署員・スクールサポーターを招いて全校児童への指導を行った。昨年度は児童を守るための教職員を対象とした、不審者対応訓練を実施した。

### 2. 内容

#### ①不審者対応訓練

< 想定～不審者の侵入～ >

小学校玄関から、不審者が侵入。玄関ホール内で、職員が発見。不審者はC階段から3年生教室へ向かう。放送の指示で、全学級、教室に待機。不審者が3年生教室前辺りにいることを確認して、1・2年生は、C階段から、5・6年生は、D階段から体育館へ避難。その後、不審者は、1・2年生教室方面へ向かう。3・4年生は、中学校側から体育館へ避難。

#### ②講演：大月署員・スクールサポーター・駐在所員

- ・避難訓練のフィードバック：児童が避難の基本的要素「お・は・し・も」を守って避難できたかについての評価。
- ・登下校時や遊んでいるとき、街で不審者に遭遇した時、どのように逃げるかロールプレイ形式での逃げ方や不審者対応。

### 3. 成果と課題（○成果 △課題）

～教職員の成果と課題 抜粋～

- 教師が誘導する形であり、避難の動きそのものは良かったと思う。
- 3・4年生は、遅れての避難だったが、不審者の様子を見ながら落ち着いて対応することができた。
- 不審者への恐怖感が強く、〇〇の場合はどうしたらよいのかなど、質問が多く出た。また、自分事として捉えていた。
- 講演の中で模擬訓練をさせてもらえて良かった。
- 子ども達もよく知っている「いかのおすし」を丁寧に確認できて良かった。
- △その場でも構わないので参加児童全員に「助けて」等の言葉を実際に声に出す機会を設定しても良かった。
- △事前指導後も一日怖がっている様子がある児童がいた。今後、恐怖感を持たないように丁寧に指導する必要がある。
- △避難する際に少し声が聞こえてきたので、静かに移動する理由を確認した上で、より意識できるようにしていく。







地域と連携した安心・安全な学校づくり

1 目的

・地域人材の活用

稲作体験や歴史学習、環境教育や伝統・文化を学ぶ中で、地域の方々に大切に見守られている意識を高める。

・家庭との連携

授業参観、地域への学校開放、PTA 活動等を通して学校教育に対する理解を深める。

・子どもの安全確保と道德教育の推進

スクールガードや声かけあいさつ運動等を通して地域と連携し、子どもたちの安全確保と豊かな心の育成をはかる。また、3年間の道德教育研究推進校の取り組みを通して、礼儀や伝統、文化を尊重し、郷土を愛する心を育成する。

2 内容

○5年生 稲作体験

毎年、町の農業委員の方々のご協力をいただいて、5年生が田植えや稲刈りに挑戦している。また、収穫したお米を使って親子でおにぎりを作ったり、給食で食べたりしている。稲作の苦労とお米の大切さを実感することができていた。



稲作体験

○土曜参観・親子活動

休日の土曜日を授業日にし、土曜参観を行っている。休日の方が多いということもあり、普段なかなか来られない家族の参観者が多く見受けられ、学校教育に対する理解が広がった。【10月28日実施】



土曜参観

○スクールガード・青少年育成西桂町民会議・道德教育研究推進校の活動

約80名のスクールガードが毎朝、子どもたちの登下校の安全を見守っていただいている。また、青少年育成西桂町民会議の方々が月一回程度、声かけあいさつ運動に協力していただいている。地域で子どもたちを見守り、育てる体制が整っている。

また、令和4年度より3年間道德教育研究推進校の指定校になっており、小中連携を通して郷土を愛する心の育成に努めている。



スクールガード



声かけあいさつ運動



小中連携 八十八大師の前掛け交換

3 成果と課題

- ・子どもたちは、地域の方々や多くの人たちによって見守られていることを実感することができた。
- ・地域の人材活用は、教育課程編成時に備考欄に人材を記入することで、次年度につなげていくことが大切である。
- ・地域の方が子どもたちの顔や家を認識している。また、あいさつを進んでする子が増えてきている。
- ・地域の方々の高齢化もあり、様々な活動を次の世代へと継続していくことが課題と言える。
- ・地域と連携していくためには、学校の窓口が大切である。そこに負担がないようにしていく必要がある。

## 「忍野八海ふれあい大学(総合的な学習の時間)」

3年 耳の不自由な人について考えよう

### ～福祉講話・手話体験会～

耳の不自由な方についての学習や体験を通して、

理解を深めたり、今の自分にできることを考えたりする学習

## 1 目的と経緯

本校では3学年から6学年までの4カ年の総合的な学習の時間を、「忍野八海ふれあい大学」と名付け、地域に根ざした様々な学習活動を行っている。3年生では福祉をテーマに、地域の耳の不自由な方や手話サークルの方とのふれあいを通して、自らの生活を見つめ直し、自分にできることを考える取り組みをしている。

## 2 内容

### ①【福祉講話】

聴覚障害者の関根ふじゑさんをお招きして、福祉講話会を開いた。耳の不自由な方の生活や日頃感じていること、児童に伝えたいことなどについてお話しただくとともに、簡単な手話講座や質問の時間を取った。



### ②【手話体験会】

手話サークル「ふじざくら」のみなさんをお招きし、基礎的な手話の学習と演習を含んだ学習活動を行った。

### ③【学びを深める活動】

①②の学習を通して学んだこと、興味を持って図書などで調べたこと、これからの生き方に生かしたいことなどを、教科横断的に捉え、報告書という形式のレポートにまとめて交流し、互いの学びを深める学習を行った。

## 3 成果と課題



・児童は講師の話に真剣に耳を傾け、「初めて知ったこと」「感じたこと」「もっと知りたいと思ったこと」などについて丁寧にまとめ、福祉への意識を高めることができた。

・普段、耳の不自由な方をふれあうことがないため、児童にとってとても印象に残る講話となった。自分にできることについて考えを持つことができた。

・継続して同じ講師に来ていただいているので、異学年児童が共通の体験をもとに対話的な学習をすることが可能である。交流学习の方法も探っていきたい。



# 本校の地域連携・地域交流

山中湖村立山中小学校

## 福祉教育の推進 ～山中湖村社会福祉協議会との連携～

☆4, 5年生総合的な学習の時間

4年生：①点字学習会（講師：山田栄子さん）

②手話体験（講師：手話サークル白鳥 代表 畑山はるみさん）

③視覚障害者講話（講師：荻窪たき子さん・盲導犬ガロンちゃん）

④車イス体験（講師：小林俊介さん）

5年生：グランドゴルフ（山中湖グランドゴルフ愛好会）

### 1. 目的と経緯

- ・毎年、山中湖村の社会福祉協議会から補助金を頂き、講師の紹介及び派遣や当日の運営、必要物品の準備・貸出等の協力のもと4年生を中心に福祉教育に取り組んでいる。
- ・地域の方々を講師にお招きし、連携を図っている。今年度は、学年をさらに広げ、高齢者のグランドゴルフ愛好会との交流を取り入れた。



### 2. 内容

- ・4年生では、点字・手話・車イス（保護者参加も呼びかけた）の体験を行い、視覚障害者の生活を知り、盲導犬の役割について学んだ。
- ・5年生は、地域の高齢者の方とグランドゴルフを体験した。3人グループに一人ずつ高齢者の方が入り、ルールやゲームのマナー、打ち方のアドバイスにスコアの付け方まで細かく教えて頂き、楽ししみながら充実した活動となった。



### 3. 成果と課題

- ・子どもたちは講師の方の話に真剣に耳を傾け、体験活動に意欲的に取り組んだ。事前学習の成果を生かし、関心意欲を高めて講話や体験に参加できた。
- ・低学年は、保育園児にも参加して頂き、交通安全集会を行っている。地域の安協や駐在所の方から、交通ルールについて説明を受け、横断歩道の渡り方や自転車の乗り方体験を毎年学んでいる。
- ・講師の送迎や福祉講話の企画運営は、担当学年にとっては負担も大きい。また、福祉体験や高齢者との交流を、低学年にもさらに広げていけるよう、社会福祉協議会と連携して、教職員に負担のかからない計画と運営の実現を目指したい。

**美しい地域を守る活動**  
**～児童会・PTA・地域の方との連携～**

☆湖畔清掃

1. 経緯と目的

「富士は日本の宝、この清らかな環境と美しい大自然をいつくしみ守ろう」

これは、村民憲章にある言葉の1つである。

児童は毎日、富士山を眺めながら湖畔を歩いて登下校している。本活動は児童会活動の1つであり、保護者と地域の方（ロータリークラブ）と連携し、清掃を通して地域を大切にしようとする心情を育む事を目的としている。1979（昭和54）年から続いている清掃活動である。

2. 内容

- 清掃場所に集合し始めの会を行う。児童会長、学校長、PTA会長、ロータリークラブ会長さんからの話を頂く。
- 学年ごとに決められた区画内のゴミを拾う。
- 学年ごとに不燃ゴミと可燃ゴミを仕分ける。
- 清掃終了後、終わりの会を行い、活動は終了する。
- 清掃場所は、学校から歩いて行ける距離にある湖畔である。



3. 成果と課題

- ◆保護者や地域の方と共に清掃することにより、児童には「地域を大切にしよう」とする心情は育まれている。
- ◆ロータリークラブの方も活動の意義を理解し、児童との交流が深められている。
- ◆清掃時間の修正、清掃場所のローテーション、美化の啓発等、清掃活動がより効果的になるよう改善を図ることが必要である。
- ◆清掃やその他の活動を通して、児童と地域の方との交流や連携がさらに求められる。

## 鳴沢小学校の地域連携・地域交流

鳴沢村立鳴沢小学校

### ☆高齢者とのグランドゴルフの交流会

1. 目的
  - 村のグランドゴルフクラブの方々との交流
2. 内容
  - クラブの時間に、ボールゲームクラブの児童が、村のグランドゴルフクラブの方々から、打ち方のコツなどを教えてもらったり、ゲームを楽しんだりする。
3. 成果と課題
  - ルールの説明や打ち方の指導を真剣に聞く児童の様子が見られ、一生懸命に取り組む児童に対して、グランドゴルフクラブの方々も丁寧に対応してくださり、児童と交流することを楽しんでいる様子が見られた。感染症対策のため、久しぶりの交流となったが、地域とのつながりのためにも続けていくことが必要である。



### ☆ポプラっ子まつりでの交流会

1. 目的
  - 児童会行事として、縦割り班で異学年との交流を深め、児童が主体となって出店を企画・運営する。
2. 内容
  - 出店の一つとして、村の「お達者クラブ」お年寄りから遊び（お手玉・こま・あやとり・おはじき・めんこ・けん玉など）を教えて頂きながら、児童と村内のおじいちゃんおばあちゃんとの交流を深めた。
3. 成果と課題
  - 近くに住んでいる祖父母であっても、一緒に遊ぶ機会が少なくなっているようなので交流のよい機会となった。また、敬老会に合わせて児童が書いたお手紙を渡し、地域のお年寄りとの交流の機会としている。



### ☆県立ふじざくら支援学校との交流

1. 目的
  - ふじざくら支援学校の児童と直接交流し、児童相互のふれあいを通して、相手の立場や気持ちを考える。
2. 内容
  - 自己紹介カードや手紙の交換、学校で取り組んだ作品の掲示を行う。また、鳴沢小学校児童が、ふじざくら支援学校に行ったり、ふじざくら支援学校の児童が鳴沢小に来校したり、学年ごとに交流する。
3. 成果と課題
  - 本年度になり直接交流が可能となったが、感染症対策期間はオンラインで交流を続けた。交流という体験をすることにより、社会性を育て豊かな人間性を養う機会となっている。





## 本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立船津小学校

### 「船津ふれあいフェスティバル・音楽劇鑑賞会」による交流活動

#### 1. 目的と経緯

「船津ふれあいフェスティバル」は、児童会活動として行い、他学年同士で仲よく協力し交流を深めたり、保護者・地域の方・来年度入学児とのふれあいを深めたりすることを目的に行われてきた。ここ数年はコロナ禍にあり、3密回避のため人数制限をしたり地域の方や来入児を招待できていなかったりといった状況である。新型コロナウイルス感染症が5類に移行した本年度は、本来の目的に向けて、保護者の人数制限なしに行った。今年度は11月11日(土)に5年生PTA主催の「音楽劇鑑賞会」の日程と重ねて実施し、同日開催にすることで多忙化の改善にもつながっている。

#### 2. 内容

「船津ふれあいフェスティバル」は、18の縦割り班ごとに「スリッパかご入れ」「紙ひこうきとばし」「ピンポンカップインゲーム」「水中コインおとし」「ストラックアウト」「30秒ピタリチャレンジ」等、来場者が誰でも楽しめるゲームコーナーをつくった。6年生を中心に知恵を出し合い、企画から運営に渡るまで一人ひとりの児童が役割を果たし、自治的な活動として取り組むことができた。また、全教職員が縦割り班指導に関わるので、4年生PTAに受付と校内巡回をお願いした。

「音楽劇鑑賞会」は、5年生PTAが中心となり、劇団『歌舞人』をお招きし、児童・保護者が一緒になって音楽劇を鑑賞することができ、とても好評だった。内容も『アラジンと魔法のランプ』だったので、児童にとっても馴染みのあるミュージカルだった。

#### 3. 成果(○)と課題(●)

- 6年生を中心に全ての児童が企画から運営に携わるなど自治的な活動ができ、縦割り班ごとに生き生きと活動する姿が見られた。また、リーダーシップとフォロワーシップが身につく活動ができた。
- 全校児童と保護者が一緒になってゲームを楽しんだり劇を鑑賞したりしたことで、一体感を感じることができた。
- 600名弱の児童と保護者、地域の方や来年度入学児が一堂に会して行えるフェスティバルのあり方を、今後も模索していく必要がある。
- 来年度入学児との関係づくり。船津フェスティバルでの交流が難しいようなら、1年生との交流会等を考えていく必要がある。



## 勤労体験学習 八木崎公園清掃奉仕活動

### 1. 目的と経緯

- ・本校は、道徳教育・環境教育の一環として、毎年5月に親子で、八木崎公園清掃奉仕活動を行っている。
- ・本年度は、富士河口湖町主催の「万人の清掃活動」とタイアップし、児童・保護者のみならず地域の方々とも連携して行った。



### 2. 内容

- ・5月28日（日）に2年生から6年生の親子（1年生保護者は、小立小学校の環境整備作業に参加）が現地に集合し、町の式典セレモニー後、公園北側を2・3年生親子が、西側を4年生親子が、東側を5・6年生親子が、落ち葉を掃いたり花壇の除草をしたりして公園内をきれいにした。
- ・PTA執行部の方と教職員が、軽トラックで公園内を巡回し、葉っぱ等を集めた土嚢袋を回収し、所定の場所に運び処分を行った。



### 3. 成果と課題

- ・観光シーズンに向けて、あじさいやラベンダーのきれいな公園にすることができた。
- ・児童・保護者・教職員・地域の方が一丸となってできるやりがいのある活動であった。
- ・土嚢袋で150袋の草を回収することができた。



5 学年 総合的な学習の時間 「米づくりから学ぼう」

1 目的と経緯

本校では、5年生において米づくりを中心とした体験活動に取り組んでいる。地域の農家の方に田んぼでの作業について教えていただき、そこから生まれる課題を解決しながら、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けるものである。

米づくりの体験や米の加工、調理方法について考えることを通して、食文化としての米の役割、稲作に関わる農家の人々の苦労や願い、米のよさや問題に気付き、日本の食文化や持続可能な稲作の在り方について、自分のできることを考えて行動していくことができるようにしている。

2 内容

|   |   |   |
|---|---|---|
|   |   |   |
| 4月 粃まき  | 5月 田植え  | 6月 稲の消毒作業見学   |
|  |  |  |
| 10月 稲刈り   | 10月 脱穀  | 12月 お世話になった方を招待してお米パーティ   |

3 成果と課題

- 実際に自分たちで稲を栽培し、田植えから収穫・消費までを体験する中で、稲作の苦労や難しさを実感し、収穫の喜びを味わうこと、また収穫した米を調理するところまで多くの学習活動を展開することができた。
- 地域とともに作る学校教育の実現のためには、スクール・ボランティアの活性化が必要である。今後も、地域との連携推進に重点を置いていく。



『地域学習を核とした地域連携の推進』

～子どもたちが関心・意欲を高め、

地域を見つめ直すことができる河口ガイドの実践を通して～

1. 目的と経緯

・発達段階に応じて、地域素材を生かした学習に取り組むことにより、地域を再発見し、生涯を通じて、地域を語ることで育てていこうという願いのもと、学校全体の特色ある教育活動として、地域学習に取り組んでいる。

・河口小学校の近くには、世界文化遺産となった富士山の構成資産「河口浅間神社」がある。その浅間神社では国重要無形民俗文化財である「河口の稚児の舞」が奉納され、お祭りの時には、地域の人だけでなく、多くの観光客が訪れる場所である。しかし、本校の子どもにとって、河口浅間神社は身近にありながらも、知られていない。また、河口の稚児の舞についても奉納されている理由や舞に込められた願いなども知られていない。学習を通して、自分たちの身近にある「河口浅間神社」や「河口の稚児の舞」のことを学び、自分たちの近くには、このような素晴らしい場所があることに気が付いてほしい。



2. 内容

・総合的な学習の時間の一環として6年生が地域の方や保護者・5年生、そして観光客に対して浅間神社周辺を案内する。保護者がより詳しく地域を知ると共に子どもと地域を語るきっかけとしたい。また、学校の関係者(学校評議員など)や学校に協力して下さっている方々(各種学習会の講師の皆さん・河口を良くする会や河口みどりの会の皆さん)に対するガイドも計画した。この活動が、学校、保護者、地域との絆作りの一助となることもねらっている。大まかな学習内容は、以下の通りである。

- (1) 職員が地域を学ぶ
- (2) 児童が地域を学ぶ
- (3) 学んだことを活かし、ガイドの原稿を作る
- (4) 5年生・保護者・地域の方にガイドをする
- (5) 観光客にガイドをする
- (6) 学びをふり返る



観光客にガイドをする様子

3. 成果と課題

- ・児童の感想やガイドに参加して下さった地域の方や観光客のアンケートを見ても、充実した学びだったことがわかる。
- ・昨年度から、教育課程に位置付け実践を行っている。さらに、充実した学びになるように検討を重ねる必要がある。

## 豊かな心の育成～勤労生産学習を通して (地域の農家、勝山臼ひきの会との連携)

☆生活科、理科、総合的な学習の時間

【講師】 農業指導委員：倉澤吉郎さん

勝山花卉農家：小佐野成太郎さん、堀内美亀男さん、流石文さん、流石昭仁さん

勝山臼ひきの会：代表 倉澤邦子さん 他12名

### 1 目的と経緯

- ・農作物を育てる経験を通して、生き物を大切にする心情を養うと共に、働くことの意義やその喜びを味わわせ、豊かな心を育成する。
- ・10年以上にわたり、地域の農家の方々を招いて、1年生「さつまいも」3年生「とうもろこし」6年生「じゃがいも」の植え付け指導や植物の特徴などを教えていただく活動を行っている。



1年生 さつまいも植え付け体験

### 2 内容

- ・1年生は生活科の学習において、5月に地域の農家の指導のもとでさつまいもの苗の植え付けを行った。児童は、直接土を触り、柔らかく温かい感触に感動していた。除草などの世話を定期的に行い、10月には収穫を迎え、収穫物の一部を学校給食のメニューで提供した。
- ・3年生は総合的な学習の時間において、5月にトウモロコシの苗の植え付けを農家の方々に指導していただいた。除草や追肥についてアドバイスを受けながら世話をし、7月に収穫した。収穫物の一部は、児童が乾燥に石臼などを使って製粉し、12月に勝山臼ひきの会の方々の指導で、伝統のもろこし団子を作った。
- ・6年生は理科の学習として、じゃがいものからだのつくりについて地域の農家の方々からお話を伺い、4月には実際に種芋を植える体験を行った。



6年生 農業指導員によるお話



3年生 もろこし団子づくり

### 3 成果と課題

- ・収穫した作物を大事に抱え、笑顔で活動する児童の様子から勤労の大変さと共に喜びを味わっている様子がうかがえた。
- ・児童は勝山地区の歴史や地域について、体験しながら学びを深めることができた。また、地域の方々にとっては、児童とのふれあいを活動の一つのモチベーションとされており、学校と地域の双方にとって大きな意義を担っている。
- ・講師の方々が徐々に高齢になられており、今後の連携の形について各団体と連絡調整が必要である。

## 地域のことを楽しく学び、ふるさとを好きになろう

～不二せのうみ劇団公演を通して～  
(地域の NPO 団体との連携)

### ☆芸術鑑賞会

講師 NPO 法人 Happy Village 理事長 福村玲子 他劇団員の方々

#### 1. 目的と経緯

- ・芸術鑑賞を通して、演劇を楽しむマナーや態度を学ぶ。
- ・地域の人や環境を題材として、地域のことを学ぶ。

毎年、地域の自然環境保護や文化の継承を目的にした NPO 法人のつくる劇団「不二せのうみ劇団」をお呼びして芸術鑑賞会を行っている。代表者は、地域在住者で、自然環境学習やその保護に関わるフィールドでの案内も行っている。地域のことを楽しく学ぶことができるので、子どもたちは毎年楽しみにしている。



#### 2. 内容



- ・紙芝居を中心に話が展開していく中で、小道具や大道具、照明音響など本格的な劇団である。
- ・毎年、違う演目を用意し、地域の人や自然について、子どもたちに楽しく、分かりやすく解説している。本年度は、「西湖野鳥の森公園」初代園長に焦点をあて、命のつながりや自然豊かな地域の魅力を伝えている。

#### 3. 成果と課題

- ・より地域に密着した演目のため、子どもたちが地域のことをより身近に考えることができた。
- ・演劇を通しての学習のため、子どもたちは楽しみながら地域のことを学習できた。
- ・多くの方に知っていただけるように広報したが、平日の午前中の公演だったため、さらに多くの方にも学び、考えていただけるような場の設定を検討する。





# 本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立大嵐小学校

## 地域を愛する心を育てる ～ふるさと学習を通して～

### 1. 目的と経緯

- ・地域を回ることで、地域の人々や自然について学習する。
- ・講師を招聘しての学習会を実施し、地域の歴史や良さを学習する。
- ・毎年4月25日に行われる天神社祭典に「ふるさと学習の日」として全校で参加していた。コロナ禍のため、平成31年度を最後に参加できなかったが、今年度4年ぶりに参加することができた。



### 2. 内容

- ・祭典の前に富士河口湖町生涯学習課杉本悠樹先生による学習会が行われた。「大嵐」の名前の由来について(1)大きな嵐がきた、(2)大原(7つの村)と言って、大原七郷についての説明があった。また、「御神輿」は神様が乗っているの、地域を廻ることで、神様の力を地域に運んでいるというお話もあった。その後子どもたちは法被を着て神輿庫へ向かった。
- ・神輿庫での出発式後、全校児童が区役員や氏子と一緒に、足和田山の中腹にある大嵐天神社を参拝した。何人かの方が玉串(榊)をあげて、一同2礼2拍手1拝をした。
- ・その後、ふもとまで降りてから、神輿を担いで地区を練り歩いた。お賽銭用の大きな笹を高学年の2人が担いで歩いた。途中、何度か休憩し、地域の方とのふれあいの時間をもつことができた。また、保護者も神輿の補助や休憩所の運営などで、祭典に協力をした。未就学児も法被を着て参加していた。



### 3. 成果と課題

- ・4年ぶりの祭典ということで、地域一体となって参加しお祭りを盛り上げてくれた。
- ・子ども達は地域の方とのふれあいをもてる有意義な一日になった。また、大原七郷の中心であったという大嵐の歴史を知ることで、自分達が住んでいる地域への誇りをもつことができた。
- ・児童数や保護者の減少に伴い、神輿を担ぐことや準備が大変にはなってくる。しかし、この学習を通して地域や家族の人とのふれあいや絆を深めることができた。
- ・お神輿を友達と担ぎ、天神社のいわれを学び地域を知ること、ますますふるさとを愛せる人間になってほしいと願っているの、今後も継続していきたい。
- ・地域の方々に支えられていることを強く感じるとともに、大きな励みになった。

# 本校の地域連携・地域交流

富士河口湖町立富士豊茂小学校

## ～ 地域に学び地域と共に歩む豊茂小 ～

### 《 学校・保護者・地域一体型運動会 》

#### 1 【目的と経緯】

コロナ禍前には当たり前のように実施できていた行事であるが、感染拡大の恐れを考慮して、ここ数年、



規模を縮小して学校のみで行っていたものである。しかし、学校の活動により多く参加したいという保護者の方や地域の方々からの要望や新型コロナウイルス感染が5類に移行し制限が緩和されたことで、本校の特色でもある「小規模校の特性を生かした地域に根差した教育活動」を再スタートした。児童が地域の方に支えられていることを感じることで、地域が学校を大切に思う心、関係する人々が一つの目標に向かって協力する気持ちを育むことを目的に、本行事を進めてきたところである。

#### 2 【内 容】

- ・これまで児童が行っていた係活動を保護者に行ってもらった。(放送、準備、審判等)
- ・当日を迎えるまでに、夜、保護者に来校していただき各係の打ち合わせを行った。
- ・区長、条会長を通じて、回覧板を使った運動会の案内の配布。
- ・種目内容の決定及び種目責任者の決定。種目については、「児童種目」「保育所種目」「親子種目」「地域種目」を行うこととした。
- ・地域種目参加者への参加賞配布。



#### 3 【成果と課題】



- ・本校職員は、短いサイクルで異動を余儀なくされている。その結果、以前行っていたものを知っている職員は皆無に等しい。そのため、ゼロからのスタートとあってよいものだった。モデルチェンジしても充実感があるようにすること、持続可能で過重負担を引き起こさないようにすること、参加する方々が満足してもらえること、スムーズな運営ができることを観点として計画することは大変難しいことだった。

- ・保護者、地域の方々から好意的な反省を一定数いただいたが、1日開催や地域参加種目の増加を求めのご意見もいただいている。
- ・今年度の実施を生かし、学校においても地域においても「WIN WIN」の関係を保ちつつ、持続可能なものにできるようにしていくことが大切であると考えられる。